

琉球大学学術リポジトリ

管内概況 眞岡支廳

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 昭和3年6月調 綴じ込み地図 (B4) 挟み込み名刺「樺太廳技師 岡本暁」 資料形態: 冊子／新書版 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38419

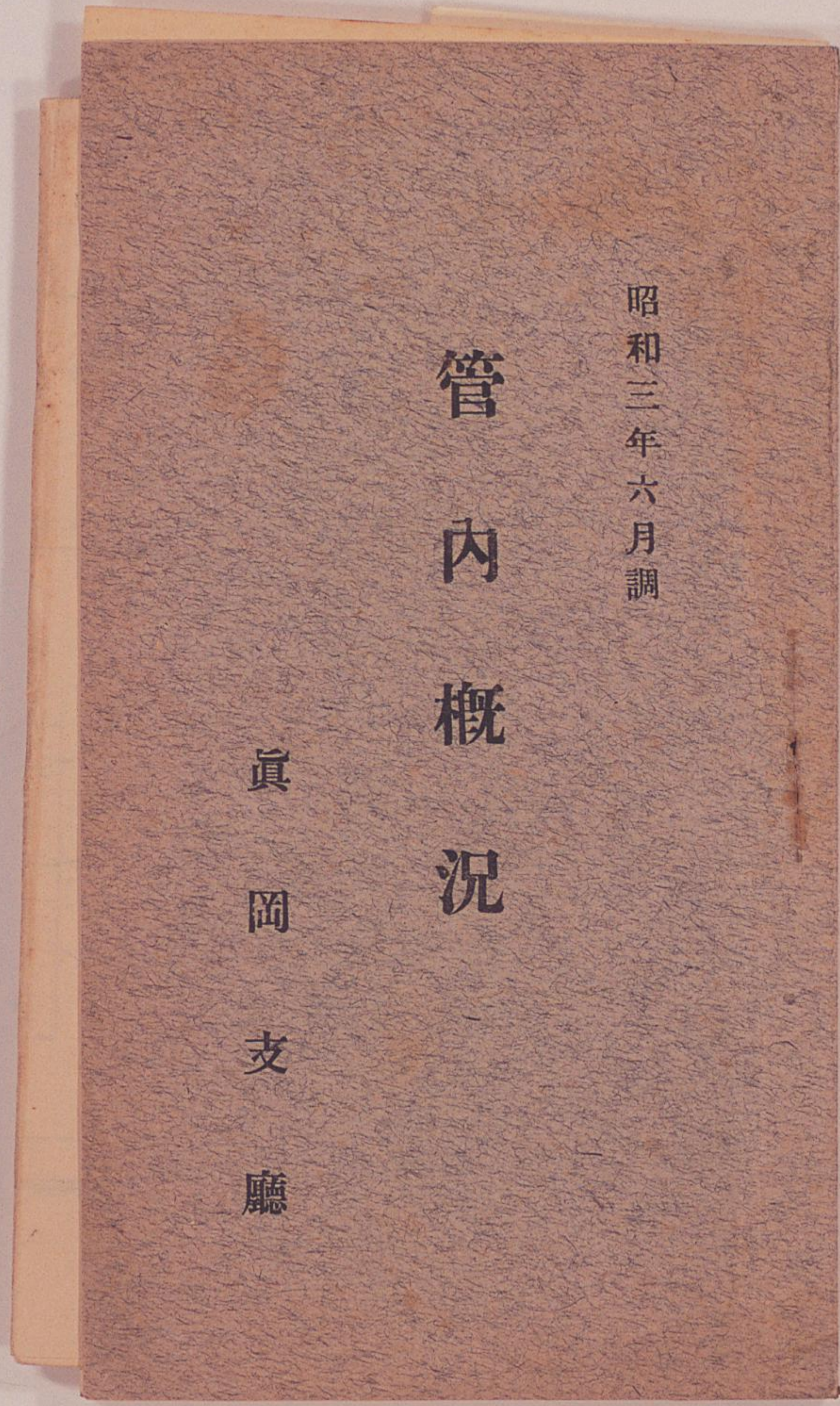
矢内原忠雄文庫

史料名	昭和三年六月調 管内概況 眞岡支廳
封筒番号	417
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 17 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：417

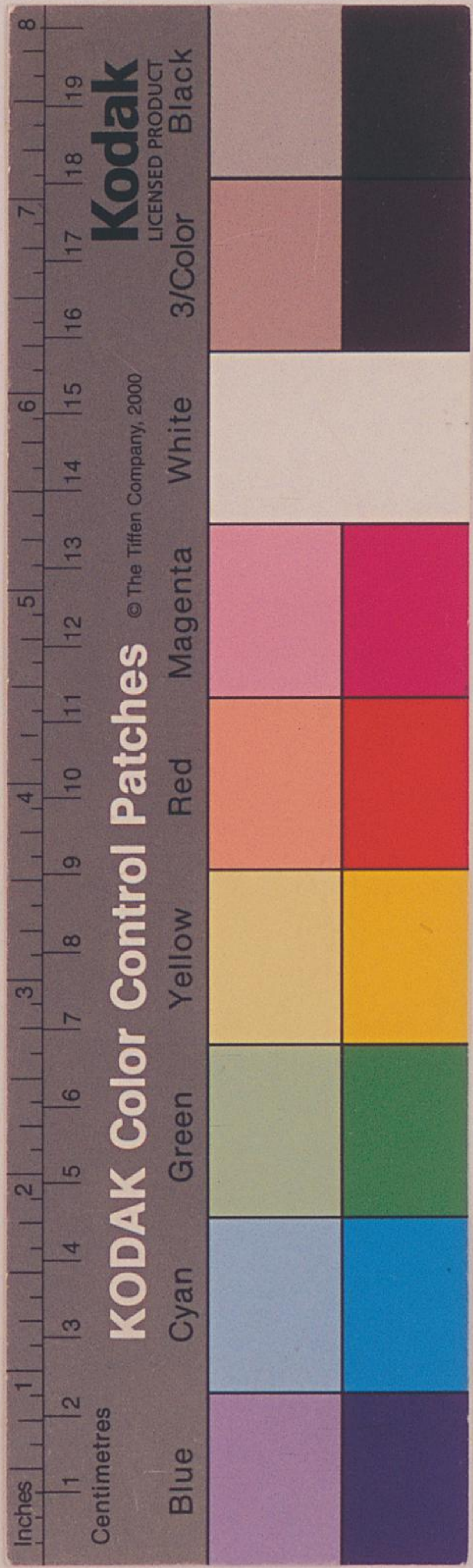
史料名	昭和三年六月調 管内概況 眞岡支廳
資料形態	冊子／新書版
枚数	34
頁数	69
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	樺太 綴じ込み地図 (B4) 挟み込み名刺「樺太廳技師 岡本暁」 今泉分類記号：P



管内概況

真岡支廳

昭和三年六月調



1/10

説明 ターゲット

この原本は
一部文書が
糊付けされています

(1)

一、管 區 位置地勢	1
二、気 候	1
三、戸 口	4
全島戸口トノ比較、町村別現住戸口、町村別面積及人口密度	
本籍別現住戸口、職業別現住戸口、出生及死亡	
四、交 通	13
鐵道、海運、港灣、通信	
五、産 業	17
(商業) 商業狀況、物價勞銀	
(工業) 森林化學工業、水産食料品製造、礦造業	
(水産業) 製材業、商工業關係會社、各種工場、工産物生産高	
(農業) 漁業狀況、水産物加工狀況、水産試驗場、水産物生産高、	
(畜産業) 農業發達及移住民狀況、農作物生産高、耕作物期間ノ氣象、	
(林業) 森林面積及材積、苗圃狀況、林産物賣拂高、	
(畜産業) 家畜及養狐狀況、牧場、畜産物生産高、開業獸醫蹄鐵工	
(礦業) 礦業	

目 次

正 誤 表

頁 行	誤	正	頁 行	誤	正
六	九	京都府	三四	二	二六三、四七〇
一三	一〇	一九	三五	二	二六三、四七〇
一七	一〇	普	同	七	試論ヲ行ヒ
一九	一	七	同	七	試論ヲ行ヒ
同	七	臺灣産	三八	一	七百十二萬
同	一	臺灣産	四〇	四	第二紀層 第三紀層
二二	一〇	五個所アル	四六	四	三〇九、〇四
三〇	六	魚	四七	六	二六、二四九
三三	二	二六九	四九	五	一八、三三六
			五二	五	一七、三三六
			五六	四	見ルニ至ル
					見ルニ至ル

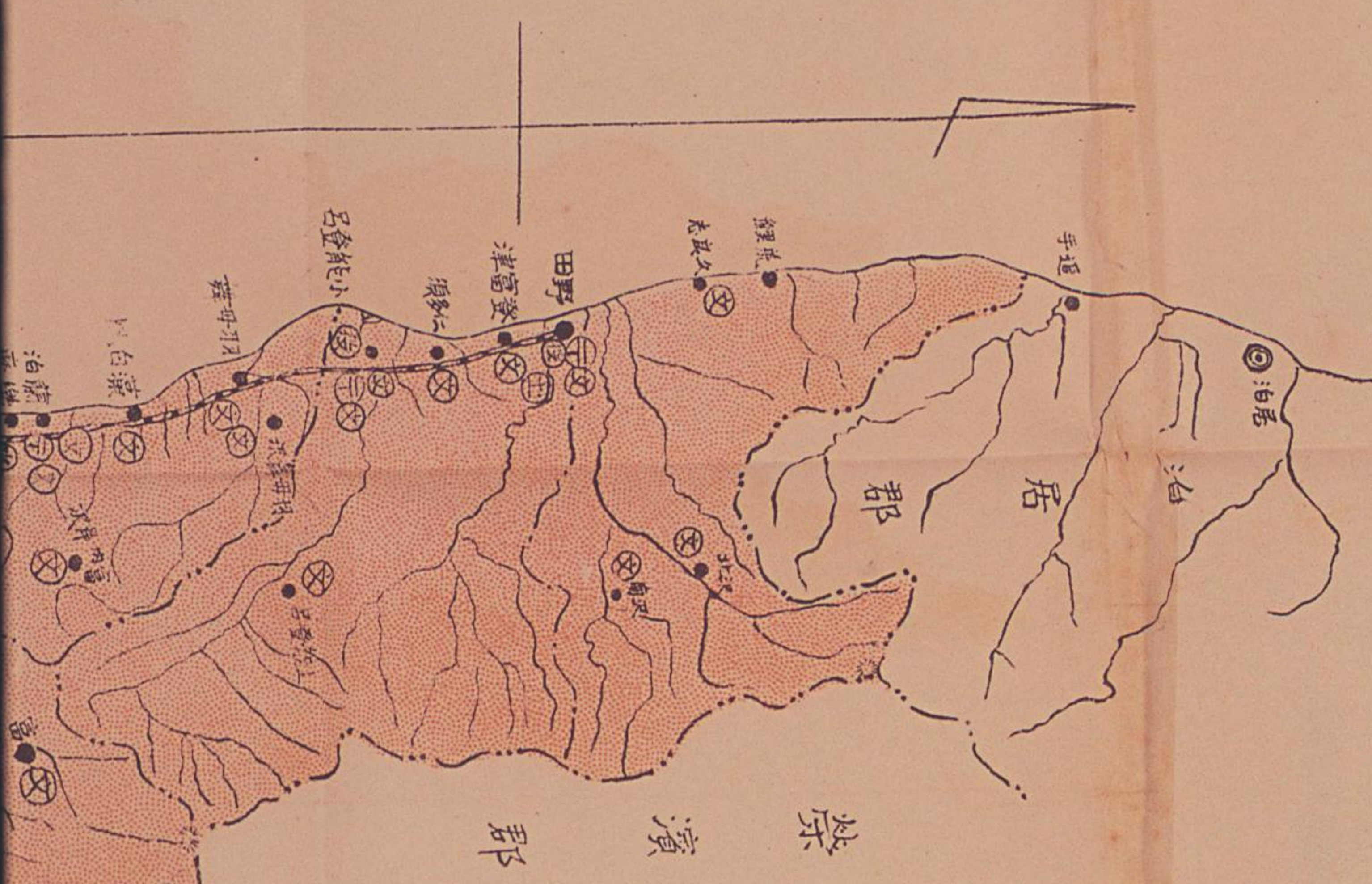
(2)

六、組	產業組合、漁業組合、農事實行組合、各種組合ノ區域所及狀況	40
七、運	輸 (移出入) 移出入物資價額 (外國貿易) 貿易狀況、移出入品價額	43
八、金	金融機關狀況、銀行預金貸付金、銀行金利、郵便貯金、爲替	45
九、財	國稅、町村歲入歳出豫算、支廳歲入歳出決算	48
一〇、社	神社、寺院、基督教所	52
一一、教	育及刊行物 小學校教育、中等教育、社會教育、刊行物	54
一二、衛	醫治機關狀況	57
一三、土	人 狀	58
一四、官	官公衛所在地 官公衛所在地	53

(附 錄) 眞岡支廳平面圖

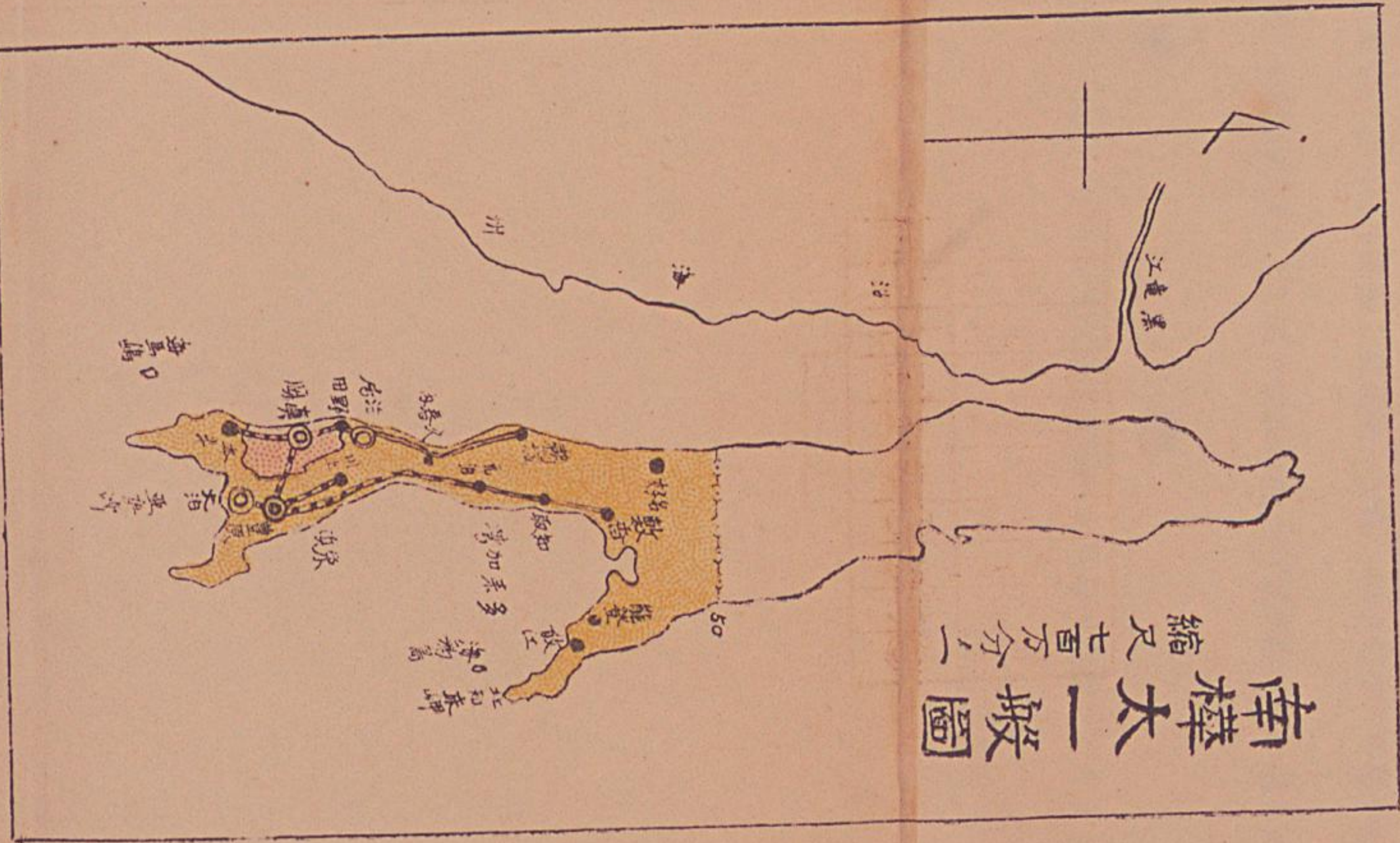
眞岡支廳管内平面圖

縮尺五十分の一



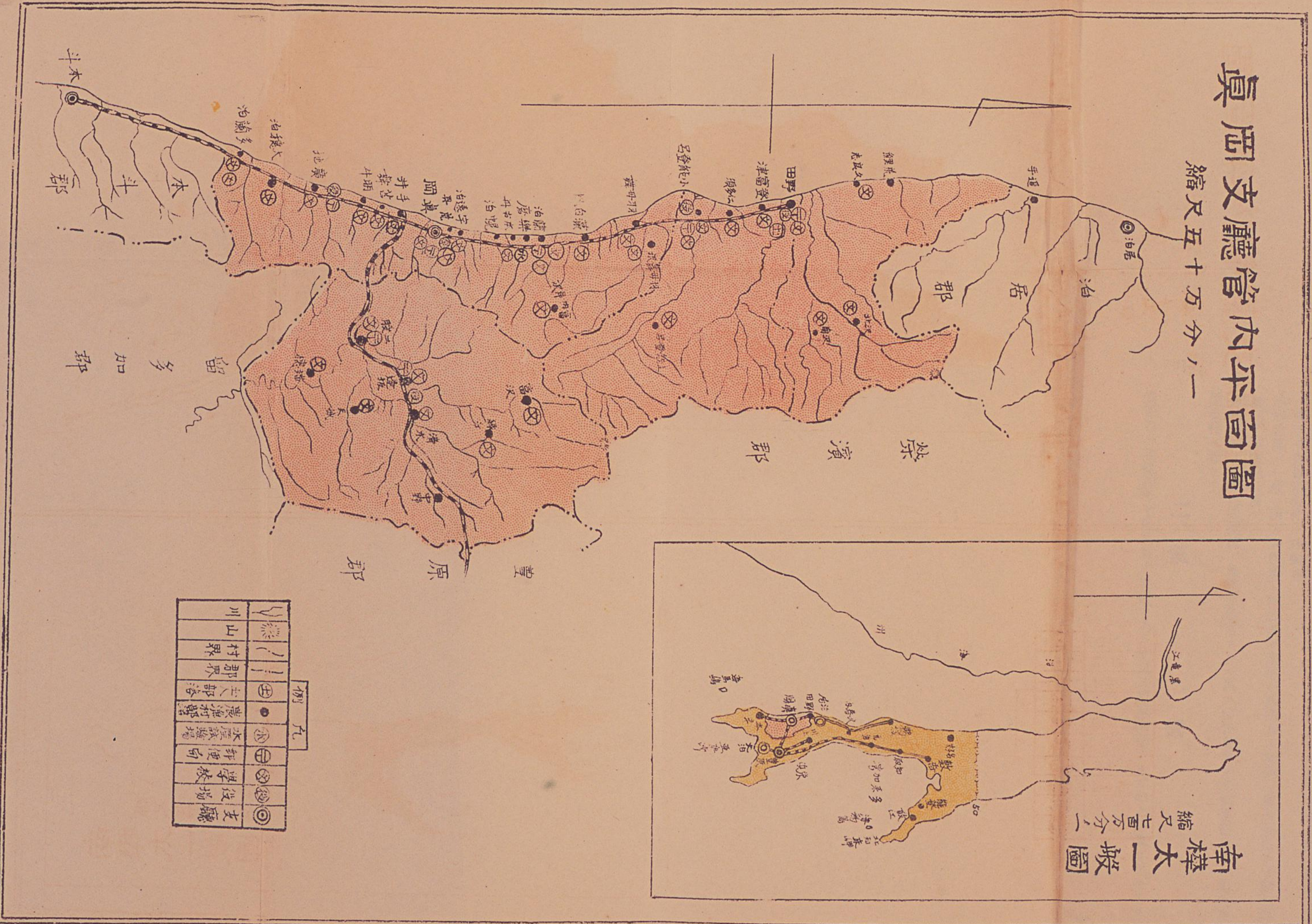
南樺太一般圖

縮尺七百分の一



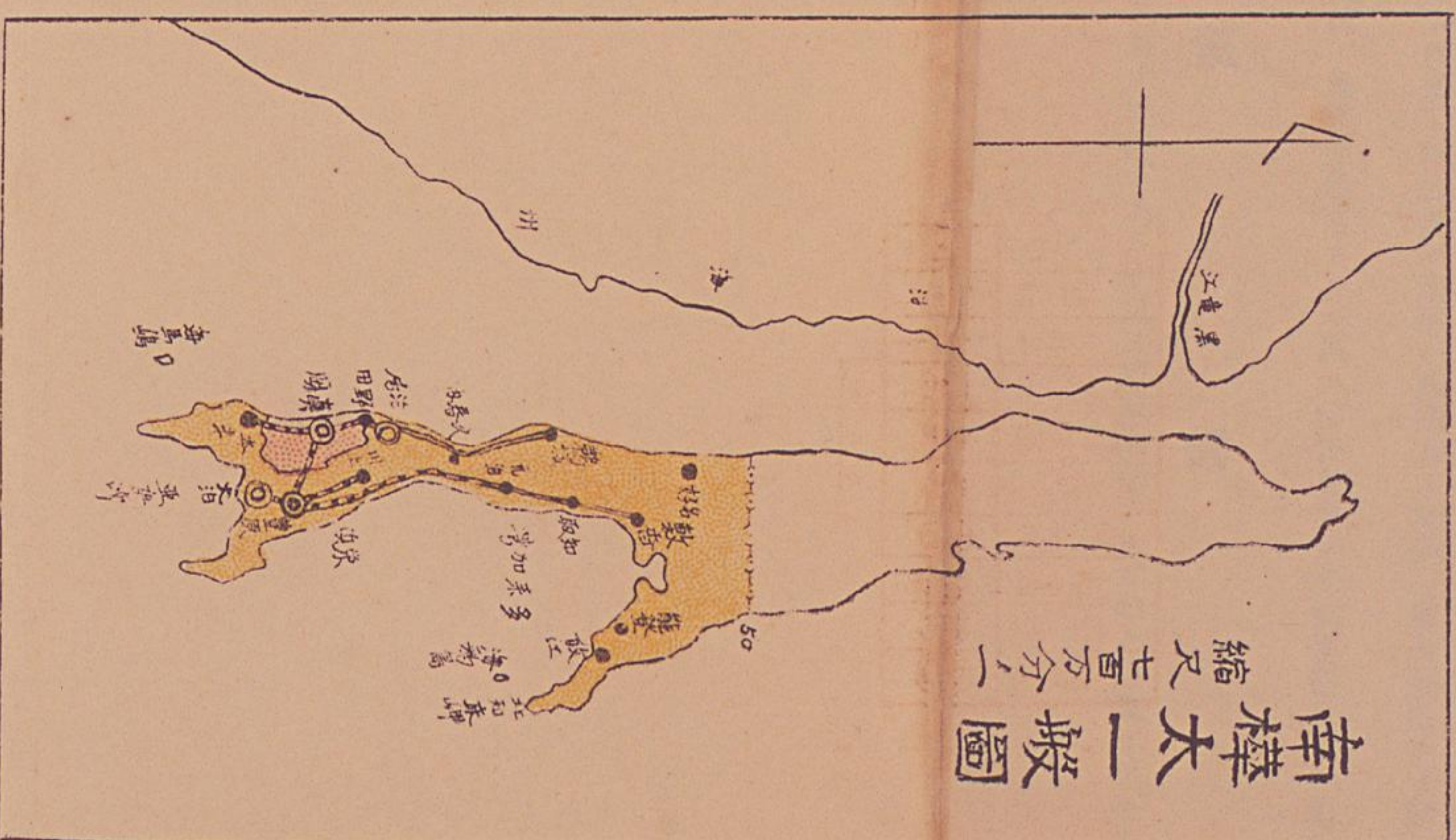
眞岡支廳管内平面圖

縮尺五十分之一



南樺太二般圖

縮尺三十分之一

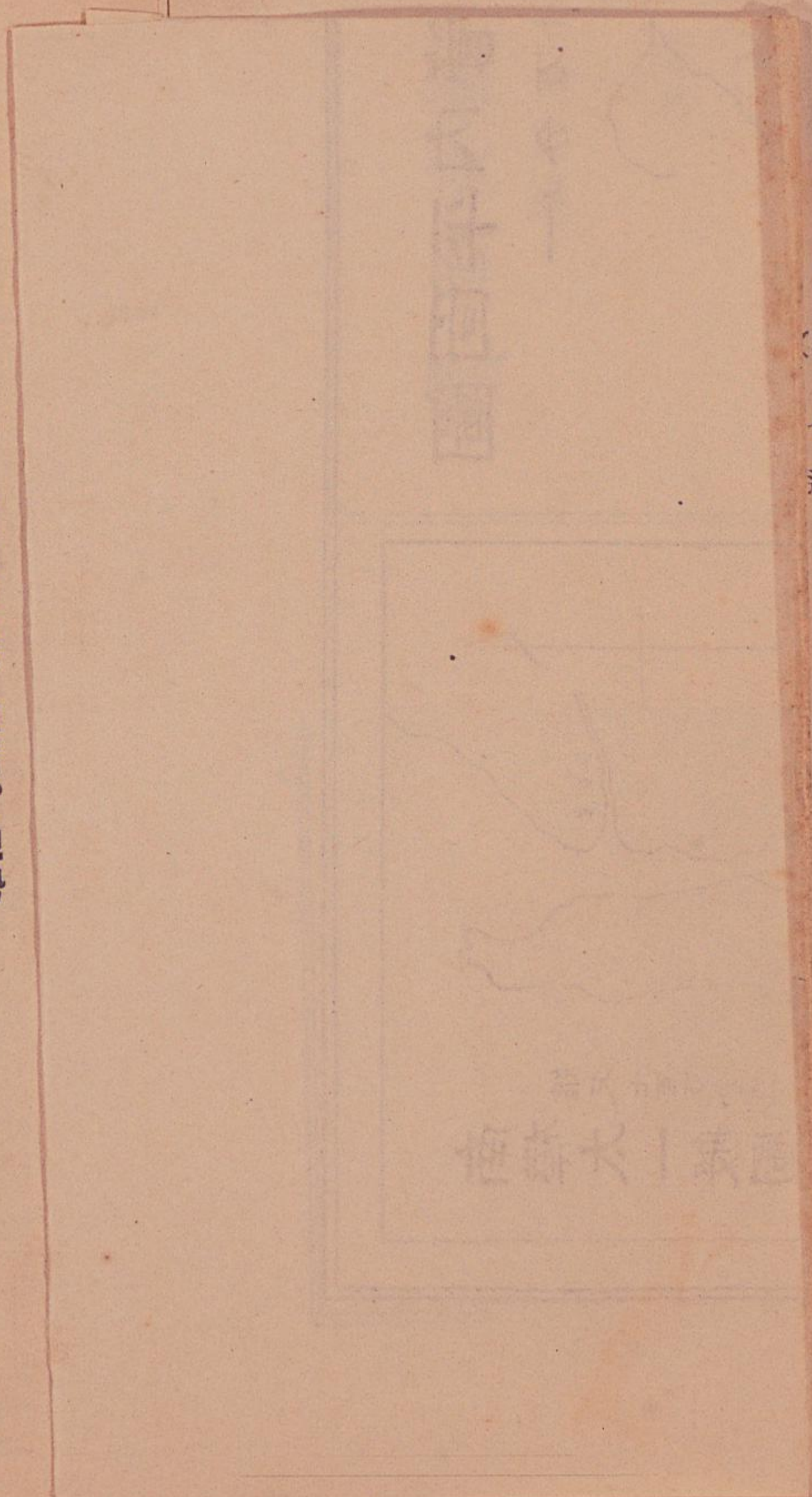


例九

川	山	村界	郡界	支庁界	支庁庁舎	支庁庁舎	支庁庁舎	支庁庁舎	支庁庁舎
≡	∩	—	—	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙

(2)

六、組	産業組合、漁業組合、農事實行組合、各種組合ノ區域所及狀況	40
七、運	輸	48



一、管區、位置、地勢

真岡支廳ハ真岡、野田ノ二郡ヲ管轄シ中ニ真岡町、廣地村、清水村、蘭泊村、小能登呂村、野田町ノ二町四ヶ村ヲ包括ス
 其ノ區域ハ東經一四二度二九分ヨリ一四一°五四分北緯四六度五一分ヨリ四七度三四分ノ間ニ在リテ南北ノ最長二十五里東西ノ最モ廣キ處十一里狭キ處六里面積一六一方里ニシテ、東ハ西樺太山脈ヲ以テ榮濱郡及豊原郡ニ界シ南ハ留多加郡及本斗郡北ハ泊居郡ニ接壤シ西ハ開宮海峽ヲ隔テテ露領沿海州ト相對ス
 地形北部ハ一般ニ西方ニ傾斜シ細流多ク南部ハ西南方ニ傾斜シ留多加山ヨリ發シ南流スル留多加川ノ流域最モ廣シ
 氣候溫和ニシテ地味肥沃、魚族亦豊富ナレバ夙ニ移住者多ク交通至便ナルヲ以テ本島中開拓ノ進歩特ニ著シ

(1)

二、氣候

當管內ハ北緯四十七度内外ノ地點ニアルヲ以テ寒威酷烈ナルガ如ク想像セラレルモ本島中央部

(2)

ヲ南北ニ縦走スル背梁山臺西樺太山脈ニテ北東風ヲ遮斷サルト一ハ間宮海峡ヲ北向スル暖流ノ影響トニ因リ砂カラス冷寒ヲ緩和シ沿岸ハ冬季ト雖モ海水凍結スルコトナク平均最低氣温攝氏一、一度平均最高氣温七、九度ニシテ真岡港ノ如キハ風ニ不凍港トシテ知ラル故ニ冬季ト雖モ特殊ナル碎氷裝置ヲ有セサル船舶ノ出入亦自由ニシテ、北海道、内地諸港トノ間ニ定期船ノ往來絶エス、今真岡觀測支所ノ觀測ニ係ル氣象ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

氣

象

昭和二年 △ハ氷點下ヲ示ス

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
平均氣温	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
最高氣温	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
最低氣温	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
平均風速	七、八	四、九	五、九	四、五	四、三	三、八	三、九	三、九	四、三	五、一	五、一	六、九	五、〇

(3)

項目	北	南	東	西	平均
最多風向	北	南	東	西	南
日照時數	六、九	一〇、五	五、〇	六、三	一〇、〇
濃霧日數	一	一	一	一	一
降水日數	〇	一	一	一	一
降水總量	三、一	一六、七	三、三	五、三	八、〇
降雪日數	〇	三	三	三	三
暴風日數	〇	五	四	九	三

霜

雪

季節

節

年	終日	初日	終日	初日	終日	初日	終日
本年	五月廿五日	十月十一日	五月廿三日	十月七日	四月一日	十二月三日	
平均	五月十六日	十月四日	五月十五日	十月廿二日	四月十一日	七月廿四日	

三、戸

(4) 管内ハ眞岡ヲ中心トシテ沿岸十數里ニ亙リ人家稀比シ山間ニアリテモ數百戸ノ農村アリテ戸數七千六百十四戸人口三萬六千七百二十人ナリ之ヲ本島總人口二十二萬一千二百四十三人ニ比較セバ約六分ノ一ヲ占メ又本島一方里平均人口九十四人ニ比シ實ニ稀薄ニシテ本島中最モ人口稠密ナリ尙開拓ノ進捗ト共ニ人口益増加ノ趨勢ニアリ

町村別現住戸口

郡	町	村	昭和二年		大正十五年(昭和五年)		大正十四年	
			戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
眞岡郡	廣地村		55	2,880	53	2,710	56	2,730
		眞岡町	3,050	13,950	2,875	13,100	2,620	11,350
		清水村	61	5,020	65	4,710	64	5,000
		蘭泊村	1,335	5,875	1,210	5,695	1,200	5,865
野田郡	小能登呂村		27	2,755	26	2,650	25	2,545
		野田町	582	5,445	543	5,690	515	5,145
		計	582	5,445	543	5,690	515	5,145
		計	582	5,445	543	5,690	515	5,145

町村別面積及人口密度

郡	町	村	面積	方里人口	
				昭和二年	大正十五年(昭和五年)
眞岡郡	廣地村		1.636	1,679	1,679
		眞岡町	7.010	1,771	1,771
		清水村	0.827	5,820	5,820
		蘭泊村	3.864	1,519	1,519
野田郡	小能登呂村		0.650	4,273	4,273
		野田町	1.126	4,937	4,937
		計	1.776	4,937	4,937
		計	1.776	4,937	4,937

(5)

(6)

府 縣	戶 數	人 口		計
		男	女	
神奈川縣	四	五	七	一〇
大阪府	三	五	六	一〇
京都府	三	四	一	五
東京府	三	一	八	九
北海道	三	一〇	三	一三
樺太	二	四	四	八
府 計	一七	三〇	三六	六六
野田郡		一六	一〇	二六
小能登呂村		一六	一〇	二六
合 計	一六	三〇	三六	六六

内地人本籍別現住戸口

昭和二年十二月末現在

(7)

府 縣	戶 數	男	女	計
兵庫縣	一〇	一八	一六	三四
長崎縣	三	五	四	九
新潟縣	三	五	四	九
埼玉縣	二	三	三	六
群馬縣	二	三	三	六
千葉縣	二	三	三	六
茨城縣	二	三	三	六
栃木縣	二	三	三	六
奈良縣	一	二	二	四
三重縣	一	二	二	四
愛知縣	一	二	二	四
府 縣 計	一七	三〇	三六	六六

(8)

秋田縣	山形縣	青森縣	岩手縣	福島縣	宮城縣	長野縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	靜岡縣
105	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275

(9)

香川縣	德島縣	和歌山縣	山口縣	島根縣	廣島縣	岡山縣	鳥取縣	富山縣	石川縣	福井縣
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275
1,125	1,140	1,155	1,170	1,185	1,200	1,215	1,230	1,245	1,260	1,275

(10)

朝鮮人	▽本表外△		計	鹿兒島縣	宮崎縣	熊本縣	佐賀縣	大分縣	福岡縣	高知縣	愛媛縣
	▽本表	外△									
三五	10,000	10,000	20,000	10	10	10	10	10	10	10	10
五	10,000	10,000	20,000	10	10	10	10	10	10	10	10
五〇	10,000	10,000	20,000	10	10	10	10	10	10	10	10
四五	10,000	10,000	20,000	10	10	10	10	10	10	10	10

(11)

職業	戶數	職業別現住人口	
		從業者	職業無從屬者及家事使用人
農業	1,200	1,200	1,200
水産業	1,200	1,200	1,200
工業	1,200	1,200	1,200
商業	1,200	1,200	1,200
其他	1,200	1,200	1,200
計	5,000	5,000	5,000

職業別現住人口

昭和二年十二月末現在

職業	戶數	職業別現住人口	
		從業者	職業無從屬者及家事使用人
農業	1,200	1,200	1,200
水産業	1,200	1,200	1,200
工業	1,200	1,200	1,200
商業	1,200	1,200	1,200
其他	1,200	1,200	1,200
計	5,000	5,000	5,000

(12)

町 村	出生		死亡		昭和二年中 増減
	男	女	男	女	
	計	計	計	計	
廣地村	104	104	104	104	7
眞岡町	26	26	26	26	10
計	130	130	130	130	17
無職業			76	56	20
其ノ他有業者			4	1	3
公務及自由業			18	45	27
交通業			6	8	2
商業			39	33	6
工業			100	117	17
計			209	259	50

四、交通

町 村	男		女		計
	出	入	出	入	
清水村	2	101	1	105	108
蘭泊村	27	133	22	73	100
小能登呂村	6	19	1	3	28
野田町	36	15	24	19	74
計	71	258	52	190	309

(13)

鐵道、西海岸鐵道ハ眞岡ヲ中心トシテ南ハ二十九哩一鎮ニシテ本斗町ニ至リ北ハ二十九哩三鎮ニシテ野田町ニ達ス 毎日三往復ノ客車運轉アリ大正十三年八月稚斗連絡就航以來是ニ依ル内地北海道ノ旅行者夥シク西海岸交通上ノ至便蓋シ鮮少ナラズ、而シテ中心地タル眞岡驛ハ一日平均貨物二百五十噸乘降客約百八十人ヲ算シ逐年發展ニ向ヒツ、アリ。

豊原、眞岡間五十七哩餘ノ鐵道ハ既ニ豊原、鈴谷間運轉開始サレ續イテ大正十五年豊眞西線手井逢坂間十九哩十六鎮ノ間通ヲ見其ノ中間工事モ著々進捗シ昭和三年九月ニハ全通スベシ更ニ

(14)

野用町ヨリ泊居町ヲ經テ久春内ニ到ル四十六哩ノ鐵道ハ是亦工事ニ着手セラレ此ノ兩鐵道竣成ノ曉ハ東西兩海岸樞要市街ト連絡ヲ保ツニ至リ本島交通上面目一新スルニ至ラン。

尙野田郡小能登呂村市街地ヨリ東方同村殖民地ニ至ル約三里ノ馬車軌道アリ小能登呂村ノ經營ニ係リ農村開發ノ目的ヲ以テ貨客ノ運搬ヲ爲シツツアリ。

其ノ他逢坂、豊原間十八里餘ノ街道ハ鐵道完成迄其ノ不便ヲ補フタメ定期馬車ノ外自動車ノ往復アリ三時間ヲ以テ兩地ヲ連絡シ又冬季ニ至レバ豊原西線二股ヨリ留多加ニ至ル間定期馬車ノ運行アリ留多加ヨリ瀛車便ヲ以テ新場ニ至リ泊桑線ニ連絡シ、尙野田、泊居間十里餘モ海路ノミナラス定期馬車及自動車ヲ運轉シツツアリ。

海運、海岸線ハ殆ト正北ニ走リ大穂泊、廣地、眞岡、蘭泊等小灣駁カラズ小能登呂岬以北ニ野田灣アリ四季ヲ通ジ船舶ノ交通頗ル多ク眞岡港及野田港ハ常ニ定期船出入シ殊ニ四月ヨリ十一月ニ至ル夏季航路ニ於テ最モ頻繁ナリ定期航路ハ逕信省命令航路及樺太廳命令航路ノ二ナルガ眞岡ヲ起點トシ又ハ寄航地トスルモノヲ舉グレバ左ノ如シ。

函館、安別線 二隻 小樽、惠須取線 二隻 眞岡、名好線 二隻
 函館、眞岡線 二隻 伏木、惠須取線 二隻 大阪、眞岡線 二隻

大阪、惠須取線 三隻

其ノ他眞岡港ヲ基點トシ島内南北諸港ニ至ル樺太廳命令發動機船及北海道内地諸港ト眞岡港及野田港ニ寄港スル定期不定期航海ノ瀛船駁カラズ又大正十五年四月ヨリ近海郵船株式會社ニテ眞岡港ヲ基點トシ北海道内地樺太間ノ船車連絡運帶取扱ヲ開始シタルタメ稚斗連絡ト相俟ツテ便利ヲ極ム

管内ハ前述ノ如ク港灣ニ乏シカラザレドモ未ダ大船巨船ノ碇泊ニ便ナラズ且海陸ノ連絡ニ缺クルトコロアルヲ以テ樺太廳ハ眞岡港修築ノ計劃ヲ樹テ大正十年工事ニ着手工費二百五十萬圓ヲ以テ銳意完成ニ努メタル結果昭和三年三月之カ竣工ヲ告ケ其ノ便駁カラスト雖モ未タ大型船舶ヲ繫留スルニ足ラス之等船舶ノ出入増加ノ趨勢ニ鑑ミ尙修築擴張ヲ必要トスル現況ナリ

今昭和二年中眞岡町及野田町ノ汽車瀛船乗降客ヲ表示セハ左ノ如シ

(15)

地名	汽車		船	
	乗	降	計	計
眞岡	一五、七六	二六、八七	二五、六〇	一〇、四五
				九、三四
				一九、五七

(16)

野	八、六八	六、四八	七、四四	二、九〇	三、三〇	六、三〇
計	一、六七四	一、五三〇	三、〇〇四	一、三〇〇	三、四九四	二、五八七

通信、人口ノ増加産業ノ發達ニ伴ヒ通信機關ノ利用亦逐年旺盛トナリ管内各町村ニ郵便局設置セラレ兼テ電信電話ノ架設アルト四季ヲ通シ出入船舶ノ頻繁ナルタメ冬季ト雖モ北海道内地方面トノ通信ニ何等ノ支障ナク真岡及鐵道沿岸線ハ東京ニテ發行スル新聞紙ヲ僅ニ三日ニシテ接受スルノ實況ニアリ今管内各郵便局ノ昭和一年中ニ取扱ヒタル通信狀態ヲ表示セバ左ノ如シ

局名	所在地	電信		電話		書		小	
		發信	着信	加入者數	取扱數	引受	配達	引受	配達
廣地局	廣地村	三、三三	四、五八	—	二、八元	一、四九	一、〇八	一、五五	一、〇八
眞岡局	眞岡町	一〇〇、〇七	一〇〇、三三	五、三三	三、七五	一、六六	二、〇五	一、〇五	一、〇五
北濱局	同上	六、九元	四、四	—	—	—	—	—	—

(17)

局名	所在地	電信	電話	書	小
逢坂局	逢坂村	五、七五	五、六九	—	—
蘭泊局	蘭泊村	八、一〇	九、〇〇	六、九元	一、八七
小能登呂局	小能登呂村	四、六八	五、二六	—	—
野田局	野田町	三、七四	三、八四	一、三三	五、二七
二股局	二股村	—	—	—	—
計		一、五、九二	一、三、一六	七、〇〇	三、一四

五、産業ノ概況

商業、真岡ハ西海岸ニ於ケル首都ニシテ大泊ト共ニ本島移出入物資ノ大集散地ナリ故ニ經濟的中樞ヲナシ商取引ハ主トシテ新瀉、富山、秋田、青森、京濱、大阪、北海道ノ諸地方ニシテ此ノ方面ニ米穀、雜貨、藥工品、製紙用工業品、其ノ他移入シ水産製造バルブ及洋紙、半紙、食料品、罐詰、木材等ヲ移出シツツアリ近時海運ノ發達ト一般商工業者ノ自覺トニ依リ努メテ原産地トノ間ニ物資ノ移入ヲナスニ至レリ

(19)

昂	繭	鹽	鹽	和	酢	替	味	小	小	大
布		鯉	鯉	白		油	油	麥	豆	豆
〃	〃	〃	一貫目	一斤	〃	一升	〃	百匁	〃	〃
〃	〃	〃	島産	臺灣産	内地産	内地産	佐渡産	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
美濃紙	白紙	木炭	薪	身欠	潭鹿	梅干	鯉節	鶏肉	牛乳	鶏肉
一帖	一升	十貫目	一敷	一貫目	〃	〃	百匁	十個	一合	〃
白紙	正味八合入	白粉味八貫目	長三寸五分 六寸五分 五寸	島産	北海産	越後産	伊豆産	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

(18)

精	燕	白	品
麥	麥	米	目
〃	〃	下中上	單位
〃	〃	〃	立物名稱
〃	北海産	越中二等	越後一等
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	價
〃	〃	〃	品
豚肉	牛肉	清酒	茶
〃	〃	下リ	酒
〃	〃	〃	單位
〃	〃	〃	立物名稱
〃	北海産	金露	正喜撰
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	價
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃

物

價

尙取引ノ習慣ハ北海道地方ト大差ナク取引ノ時期ハ交通便利ニシテ且生産品ノ出廻期及需用期ヲ選コト自然ノ勢ナルモ前述ノ如ク眞岡野田ノ兩港ハ結氷ナキタメ冬季ト雖モ島外トノ船舶交通ノ絶タサルヲ以テ取引上ノ便多シ管内ノ大部分ハ水産業ヲ主要ナル産業トスルヲ以テ斯業ノ振否カ直ニ地方經濟ノ消長ニ影響ヲ及ホスコト勿論ナリトス。

昭和三年一月眞岡町ニ於ケル小賣物價及勞銀ヲ擧ケレバ左ノ如シ。

種	業	給	別	月	賃	種	業	給	別	月	賃	種	業	給	別	月	賃
洋	産	綿	布	判	圓	洋	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
晒	木	綿	反	晒	圓	晒	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
晒	天	木	一	晒	圓	晒	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
綿	一	釜	一	綿	圓	綿	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
石	油	噸	五	石	圓	石	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
石	炭	噸	一	石	圓	石	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
勞	銀	美	惠	勞	圓	勞	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
種	業	日	給	種	業	種	業	種	業	種	業	種	業	種	業	種	業
大	工	日	給	大	工	大	工	大	工	大	工	大	工	大	工	大	工
左	官	日	給	左	官	左	官	左	官	左	官	左	官	左	官	左	官
石	工	日	給	石	工	石	工	石	工	石	工	石	工	石	工	石	工

種	業	給	別	月	賃	種	業	給	別	月	賃	種	業	給	別	月	賃
木	挽	靴	工	木	圓	木	紙	紙	紙	木	紙	紙	紙	木	紙	紙	紙
家	根	馬	具	家	圓	家	紙	紙	紙	家	紙	紙	紙	家	紙	紙	紙
煉	瓦	車	槌	煉	圓	煉	紙	紙	紙	煉	紙	紙	紙	煉	紙	紙	紙
疊	積	和	服	疊	圓	疊	紙	紙	紙	疊	紙	紙	紙	疊	紙	紙	紙
建	具	洋	服	建	圓	建	紙	紙	紙	建	紙	紙	紙	建	紙	紙	紙
經	師	銀	治	經	圓	經	紙	紙	紙	經	紙	紙	紙	經	紙	紙	紙
指	物	鑄	物	指	圓	指	紙	紙	紙	指	紙	紙	紙	指	紙	紙	紙

工業、管内ノ工業トシテ舉クヘキモノハ森林化、工業、水産食料品製造業、醸造業、製材業等ニシテ林木ヲ資料トスル化學工業其ノ第一位ヲ占ム森林化學工業製品ハ樺ノ工業株式會社眞高工場ノ洋紙及半紙製造、王子製紙株式會社野田工場ノバルブ製造ニシテ孰レモ規模壯大ナリ
前首ハ大正八年九月ノ建設ニ係リ資料材ヲ蘭泊村富内岸澤方面ニ求メ七千五百四十馬力ノ動力

ト八十人ノ從業者ニ依リ晝夜兼行ノ操業ヲ爲シ昭和二年中ニ於テ洋紙及半紙四千五百七十三萬八千四百二封度價額六百四十三萬七千四百八十七圓ヲ生産シ後者ハ大正十一年二月建設ニ係リ千五百五十四馬力ノ動力ト二百四十四人ノ從業者ニ依リ是亦晝夜兼行ノ操業ヲ爲シ昭和二年中ニ於テバルブ一萬五千五百九噸價額二百二十六萬四千三百四十四圓ヲ生産セリ

水産食料品罐詰トシテ着業シタルハ眞岡樺太産業株式會社ノ經營ニ係ル眞岡工場、杖遠工場及個人經營ニ係ル廣地綾部、杉江ノ兩罐詰工場、眞岡片桐罐詰工場アリテ是等各工場ガ昭和二年中ニ蟹罐詰五千三百二十二圓價額十二萬九千九百九十圓ヲ生産セリ

又眞岡木罐詰工場ニテハ蟹罐詰五百圓價額六千圓ヲ生産セリ、而シテ蟹罐詰ノ生産ハ逐年減退ノ傾向アルハ近海ニ於ケル蟹ノ棲息稀薄ニナリツツアルハ勿論ナルモ特ニ前示産業株式會社ハ昭和二年中工船ニ主力ヲ注ギ陸上工場ヲ縮少シタルニ因ルモノトス

蟹工船ハ海洋隨所ニ於テ漁獲シ船内ニテ製造スルタメ優良ナル製品ヲ生産スル關上實行良好ナレバ今後はニ據ルモノ多キヲ豫想サル醸造業ニアリテハ眞岡町ニ十一個所野田町、蘭泊村、廣地村ヲ通シ五個所アル主トシテ清酒ノ醸造ヲ爲シツツアリ昭和二年中ノ生産高清酒一萬四千七百八十五圓ニ達セリ

製材業トシテ常ニ動力ヲ使用セルモノ管内ヲ通シ十一個工場アリ昭和二年中生産高十一萬三千八百六十三石價額七十四萬八千六百六十七圓ニ達ス

今管内ニ於ケル商工業關係會社工場ノ主ナルモノ及工産物數量價額ヲ舉クレバ左ノ如シ

會社名

會社名	所在地	營業種目
株式會社北海道拓殖銀行眞岡支店	眞岡町	銀行業
株式會社樺太銀行眞岡支店	眞岡町	銀行業
北海道水力電氣株式會社眞岡營業所	眞岡町	電氣業
株式會社畑木商店	眞岡町	海産物、木材賣買、酒造、請負、漁業
田中商店	眞岡町	米穀、海産物、雜貨販賣
眞岡倉庫株式會社	眞岡町	倉庫業
眞岡無盡株式會社	眞岡町	無盡業

(24)

真岡土地建物株式會社			土地建物買賣、有價證券
權太鹽業株式會社			電話買賣仲立
權太相互無盡株式會社			鹽再製加工販賣
權太信託株式會社真岡支店			無盡業
株式會社真岡青果市場			資金、通、信託、代辦、倉庫、保險、無盡業
權太郵船株式會社			果實、野菜、鹽乾魚、漬物
合名會社小森商店真岡支店			船客貨物運送解業
高木合資會社			酒類製造、雜貨販賣
合名會社藤森吳服店			米穀、雜貨、吳服、小間物
真岡回漕合資會社			吳服、洋物、小間物
合資會社東谷商店			船客貨物運送、倉庫、信託
	野田町		海產物、物品販賣

(25)

野田倉庫株式會社			倉庫業
野田解運送株式會社			解運送、勞務供給、請負業
萬全無盡株式會社			無盡業
株式會社野田郵船組			倉庫業、船船解回漕、海陸運送業
權太共榮金融合資會社			無盡及金融業
權太木材株式會社	關泊村		製材
羽母輝殖産株式會社			"
關泊無盡株式會社			無盡業
權太製粉株式會社	清水村		各種製粉販賣

(26)

綾部織詰工場	廣	地	村	蠶織詰製造
杉江織詰工場	廣	地	村	蠶織詰製造
樺太工業株式會社眞岡工場	眞	岡	町	製紙
片桐織詰工場	眞	岡	町	蠶織詰製造
畑木々工場	眞	岡	町	製材
辻木工場	眞	岡	町	製材
白井木工場	眞	岡	町	製材
津田木工場	清	水	村	製材
加藤木工場	眞	岡	町	製材
佐野木工場	眞	岡	町	製材
樺太製粉株式會社	眞	岡	町	各種製粉

(27)

王子製紙株式會社樺太分社野田工場	野	田	町	パルプ製造
宮内木工場	眞	岡	町	製材
佐渡木工場	眞	岡	町	製材
建國飲料社	眞	岡	町	清涼飲料水製造
樺太鹽業株式會社工場	眞	岡	町	鹽再製
樺太木材株式會社工場	眞	岡	町	製材
羽母舞産株式會社	眞	岡	町	製材

工産物生産數量價額

製材	單位	數量	價額	大正十五年(昭和二年)	大正十四年
紙	單位	數量	價額	大正十五年(昭和二年)	大正十四年
製材	石	二、八二	七、八七	一〇、六〇	五、九二
紙	度	四、七六四〇	六、四七四	六、四七四	六、〇六〇

清	鯨	鮫	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈	鱈
油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油
石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石
10,700	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8,250	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1,200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

燒	白	濁	醬	電	鐵	計
耐	酒	酒	油	氣	工	品
升	石	石	石	石	石	石
150	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100

水産業、 寒暖二流ノ水族ヲ有スルヲ以テ其ノ種類モ比較的多ク其ノ主ナルモノハ鯨、鱈、鯨、鱈、たらば蟹、鱈、秋刀魚、章魚、烏賊、昆布等ニシテ産額ヨリスレバ鯨、鱈、鱈、たらば蟹、昆布ノ順位ナリ而シテ鱈、鯨、鱈、ハ所謂本島三大魚族ニシテ管内ニ於ケル定置漁場、鱈八十個所、鯨、鱈二十三个所ヲ算ス共ノ他漁業組合ノ専用漁場ナルモノ九個所アリテ特定ノ海面區域ニ限リ小建網及曳網刺網ノ移動性漁具ヲ使用シ鯨、鱈、鱈ノ漁獲ヲモ認許セラル故ニ

雜漁業者ハ三大魚族ノ漁利ニ均霑スルノ外鱈、鯉、蟹昆布等ノ雜漁業ニ依リ生活シツツアリ鯉ハ主トシテ棒粕トシ一部ハ食料即チ身欠鯉トシテ製造シ鱈、鮭ハ孰レモ塩漬トシテ加工シ内地方面ニ移出セラレ鱈ハ多ク棒鱈、開鱈トス蟹ハたらば蟹ト稱スル本島及北海道北部ノ特産物ニシテ而モ本島ニ在リテハ其ノ大部分ハ管内ノ生産ニ屬ス昆布ハ沿岸至ル所ニ簇生ス漁港タル船入調ヲ築港セルモノ真岡、廣地、明牛、野田、蘭泊ノ五個所アリ
樺太水産試験場ハ真岡ヲ距ル北三里蘭泊村字樂麿ニ在リ明治四十一年ノ開設ニシテ主要魚族ノ漁撈養殖試験ヲ始メ塩藏、醃製、各種罐詰其ノ他食料加工品ノ試験ニ從事シツツアリ
今管内主要水産物生産數量價額ヲ示セバ左ノ如シ

品目	單位	昭和二年		大正十五年(昭和元年)		大正十四年	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
鮮魚生賣	元	二四、九五	四三、六五	二七、六三	四七、五三	一〇、九〇	一〇、九〇
蟹(罐詰)	元	一、三九、〇〇	六四、四三	一、一八、五九	七〇、六五	一、三六、七三	六六、六三
棒粕	貫						

身欠鯉	〃	一〇、四、五〇	四、七五	一三、一〇〇	二六、三〇	五、七五	五、七五
鯉	〃	四、七三	三、九〇	五、七五	一五、六三	三、五五	六、七三
鱈	〃	一〇、三〇	七五、八七	一七、三〇	一〇、六三	一〇、二五	九、八三
鮭	〃	五、六九	七、二五	四、三三	六、〇五	三、六七	五、八三
筋子(鯉鮭)	〃	二、〇七	三、五九	二、五三	四、四〇	二、六五	五、一六
棒鱈	〃	二五、四〇	四六、八五	二四、五五	三四、八八	三三、〇一	三六、三六
開鱈	〃	一九、六八	一九、三六	一〇、四〇	一三、四〇	一〇、七〇	二八、三六
鯉	〃	五、〇六	三、六三	五、四四	六、一八	五、七五	二、〇三
蟹	〃	三六、六八	五、三三	二四、八六	六、三九	三〇、〇三	九、〇〇
棒粕	〃						
雜魚	〃	一三、〇〇	四、三三	八、九〇	四、九五	五、六七	三、四八

昆布	〃	四八、五〇〇	三、六四三	一三八、五六六	八五、六〇〇	二、五五〇、五七	三、八八六
其他	〃	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四九、九五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計		二、三六八、〇〇〇	二、三六八、〇〇〇	二、三六八、〇〇〇	二、三六八、〇〇〇	二、三六八、〇〇〇	二、三六八、〇〇〇

備考 水産物中蟹類及魚油ハ工産物ニ掲記ス
 農業、 世上一般ノ感想カ北海ノ孤島半歳ハ島外ト船便ヲ欠キ而モ酷寒不毛ノ地ナル如ク饑
 リ傳ヘラレタルモ近時眞ニ理解セラレ且ツ各種産業ノ發達ニ伴ヒ移住者ノ増加ヲ來シ昭和二年
 末ニ於テ農業者戸數千六百七十二戸作付反別二千九百八十五町歩ヲ算スルニ至レリ
 尙管内ニハ農耕適地トシテ餘地種々タルモノアリ今最近ノ主要作物ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ

種	類	單位	昭和二年		大正十五年(昭和元年)		大正十四年
			數量	價額	數量	價額	
小	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
大	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
裸	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
燕	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
粟	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
稻	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
玉蜀黍	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
大豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
小豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
豌豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
菜豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
蕎麥	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七

種	類	單位	昭和二年		大正十五年(昭和元年)		大正十四年
			數量	價額	數量	價額	
小	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
大	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
裸	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
燕	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
粟	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
稻	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
玉蜀黍	黍	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
大豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
小豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
豌豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
菜豆	豆	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七
蕎麥	麥	石	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七	一、一〇〇	一、一八七

種別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
雲							
馬鈴薯		四、七五	七、〇六	三、六三	二、八七	二、八七	三、六六
牧草		六、三〇	七、七九	三、四一	四、五五	三、七九	四、九四
蔬菜類		六、七五	七、三三	四、九三	二、九一	八、〇六	七、九元
計		四、八四	五、七三	四、八四	五、七三	七、〇一	八、八五

次ニ真岡観測所ニ於テ観測シタル大正六年ヨリ昭和二年ニ至ル既往十ケ年間ノ平均氣象左表ノ如クニシテ農耕上氣候ノ何等危懼スヘキモノナキヲ知ルニ足ルヘシ

農耕期間前後ニ於ケル氣象表 (一)ハ氷點下ヲ示ス

種別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
平均最高	六、三	一〇、八	一五、三	一九、六	二三、〇	二八、八	二八、二
平均最低	〇、一	二、九	七、八	一二、六	一四、五	一〇、三	三、九
同氣最低							

均氣温	日照時數	降水總量	地下五粉度	最多風向	霜雪季節
二、五	一七五	五九、一	一〇	南東	終霜 五月十九日
六、八	一八八	四四、四	五、七	南東	初霜 十月六日
一一、五	一四一	五三、六	一〇、一	南々西	終雪 五月十一日
一六、〇	一五九	一〇四、六	一三、七	南々西	初雪 四月九日
一八、三	一七三	一〇一、五	一五、一	南東	根雪 五月廿七日
一四、四	一七五	一〇一、七	一五、〇	南東	
七、九	一三三	一〇一、三	一〇、二	南東	

真岡町ヲ距ル約北一里宇遠泊ニ樺太廳農事試驗場分場アリ各種ノ試驗ヲ行其ノ實績ニ鑑ミ優良種苗ノ配付或ハ農事實行組合設置ノ勸奨等當事者ノ指導誘液ニ努メ著々其ノ効果ヲ收メツツアルト時運ノ推移ニ伴フ農業者ノ自覺トニ依リ今ヤ舊觀ヲ脱シ就中蘭泊村宇富内岸澤、清水村逢坂附近、小能登呂村原野ハ其ノ開發最モ著シク本島中ノ有數ノ農村ヲ形成セリ移住者ノ多クハ東北地方及北海道ヨリノ轉住者ニシテ開墾ノ經驗ヲ有シ又冬季間ハ伐木運材等農家ノ經濟圓滑ナリ

農業目的移住者ニ對シテハ一戸五町歩以内ノ土地ヲ無償貸付シ開墾補助金ノ交付農耕馬匹又ハ種牡畜及繁殖牝畜ノ貸付農耕道路ノ開墾等可及的便宜ヲ與ヘ成墾シタル者ニ對シテハ貸付地ヲ無償讓與ヲ爲シツツアリ既ニ十町歩以上ノ讓與地ヲ有シ一家百年ノ計ヲ確立シ其ノ業ニ安スル者少カラス

林業、管内森林面積ハ十二萬町歩針葉及闊葉樹ノ蓄積約三千三百餘萬石ニシテ昭和二年中ニ拂下タルモノ用材四十二萬三千二十二石價額十八萬六千四百五十一圓薪炭材三萬三千八十一圓敷價額一萬九千四百十三圓ナリ前年ニ比シ拂下價額少キハ虫害木拂下ナキニ依ルモノトス而シテ人口増殖ト共ニ賣拂出願ハ逐年増加ノ傾向アルヲ以テ處理上多端ナルモノアリ尙大正十一年以來管内富内岸、清水、真岡澤ノ三箇所ニ苗圃ヲ設置シ苗木ヲ養成シ亦大正十二年以來真岡澤、宇遠泊澤、富内岸澤ノ燒跡地及伐採跡地ニシテ天然更新不適地域ニ植樹造林ヲナシ傍ラ播種造林ヲモ併行シ何レモ成績良好ナリ最近管内ニ於ケル主要林産物ノ生産高ヲ舉クレバ左ノ如シ

品目	單位	昭和二年		大正十五年(昭和四年)		大正十四年	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
材	石	16,452	1,358,840	15,584	1,263,640	14,073	1,133,340
石	石	1,684	1,358,840	1,584	1,263,640	1,407	1,133,340

牧畜業、管内氣候風土最モ好適シ家畜飼料タル燕麥牧草ヲ始メ天然ノ野草良ク繁茂シ移住者ノ増加ト各種産業ノ發達ニ伴ヒ家畜ノ利用ヲ増シ現今ハ需要ニ不足ヲ告クル狀態ニシテ北海道方面ヨリ移入セラレツツアリ輒近酪農業擡頭スルヤ畜牛ノ飼養激増シ昭和二年中島外ヨリ牝牛七十八頭種牡牛一頭ヲ購入テ見タリ更ニ昭和三年ニ於テ數十頭ノ畜牛購入ノ計畫アリ今ヤ産牛馬組合モ組織セラレ漸ク有畜混同農業盛ナラントスルハ地方産業上喜フヘキ現象トス而シテ昭和二年末ニ於ケル管内私有馬匹八千三百五十四頭畜牛六百九十四頭ニ達ス其ノ他樺太廳ニテ農家ニ貸付セル官有馬匹百二十七頭畜牛三十頭ノ外優秀ナル種牛馬ヲ各町村要所ニ配置シ蕃殖改善ニ努メツツアリ尙本島特有ノ養狐ハ樂磨島泊藻白帆ノ三ヶ所ニ百三十九頭飼育セラレ其ノ蕃殖六割ヲ示シ成績逐年良好ナリ

品目	單位	昭和二年		大正十五年(昭和四年)		大正十四年	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
薪炭	噸	1,943	19,430	1,907	19,070	1,833	18,330
材	噸	5,000	50,000	—	—	5,000	50,000
小丸	噸	—	—	—	—	—	—
木炭	噸	1,453	14,530	1,473	14,730	1,453	14,530
計	噸	3,396	33,960	3,380	33,800	3,283	32,830

牧場ハ共同牧場十七ヶ所地積七百九十五萬七百九十四坪民有牧場三十一ヶ所地積七百十二萬二千九百八坪ノ多キニ達スルモ未タ成績ヲ舉クル時期ニ到ラス
大正十四年以降ノ畜産物生産高ヲ示セバ左ノ如シ

種 類	單 位	昭 和 二 年		大 正 十 五 年 (昭 和 元 年)		大 正 十 四 年	
		數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額
牛 牛	頭	一、三三	九、四七二	四、八	二、八〇〇	六	六、七五
仔 畜							
馬	頭	六	六、八七〇	七	七、〇〇〇	二四	八、六〇〇
豚	頭	三、六一	三、六〇〇	〇	〇	一、九四	三、八〇〇
狐	頭	七	一〇、五〇〇	八	三、七五〇	六	一、四〇〇
牛 乳	石	七三	二、八〇二	二、六	二、一四五	一〇八	九、七〇〇
家 禽	羽	二、〇〇	三、九五四	一、三三	三、四六六	九、九二	一、九七、六三
鷄 卵	個	七、五、三〇	六、一〇〇	六、四〇〇	六、九三	八、七、〇〇	七、二、〇〇

開業獸醫師鐵工

昭和二年十二月現在

計	屠 畜		實肉量
	牛	馬	
牛 皮	枚		二、〇〇〇
馬 皮	枚		三、〇〇〇
豚 皮	枚		一、五〇〇
計			六、五〇〇
馬 肉			三、一六
牛 肉			三、九、五四
計			七、一、一〇
馬 骨			一、五〇
牛 骨			一、三、七
計			二、八、七
馬 骨			八、四六
牛 骨			一、五〇
計			九、九六
馬 骨			一、五〇
牛 骨			一、五〇
計			三、〇〇
馬 骨			一、五〇
牛 骨			一、五〇
計			三、〇〇

町 村 名	免 許 獸 醫	假 免 許 獸 醫	蹄 鐵 工
真 岡 町	一	一	一
關 泊 村	一	一	一
清 水 村	一	一	一

小龍登呂村					
野田町					
計					

鑛業、管内ノ地質ハ白堊紀及第二紀層ニシテ白堊紀ハ地帶脊梁ヲナシ第三紀層之ヲ被覆シ其ノ中ニ廣大ノ石炭層ヲ包含ス炭量ハ殆ト無盡藏ト稱セララルモ所謂封鎖炭田ニシテ未タ探堀スルニ至ラス鑛區許可ヲ受ケタルモノノ内野田炭鑛ハ探堀シアルモバルブ生産ノ自家用ニ供セラルルノ外賣炭スルノ域ニ達セス

六、組合

産業組合、管内産業組合數ハ四組合ニシテ設立手續中ノモノ三組合アリ全島三十四組合ニ對シ一割二分ニ相當ス、木古川信用販賣購買組合及野田信用組合ハ組合本來ノ目的ニ精進シ其ノ成績良好ナルモ他ハ概シテ經營幼稚ニシテ未タ機能ヲ充分發揮スルニ至ラサルヲ以テ是カ指導ニ努メツツアリ

漁業組合、雜漁業者ノ共同利益ヲ增進水産業ノ進歩向上ヲ目的トシ法令ニ基キ組織シタル

名	稱	組合員數	出資口數	出資額	準備金及各種積立金	各種貯金
野田信用組合		三七	四	一五八,〇〇〇	七,六六七.九五	三二〇,八五〇

産業組合

モノ四組合アリ近時指導獎勵ノ結果共同施設事業次第二行ハレ漸次發達シタメニ漁村ノ基礎漸ク健實ノ域ニ進ミツツアリ共同施設事業トシテハ生産物ノ共同販賣必需品ノ共同購買遭難救恤等ニシテ就中眞岡町漁業組合ノ如キハ昭和二年中鮮魚共同販賣ヲ盛ナラシムル爲一萬二千餘圓ヲ以テ土地ヲ買收シ五千六十餘圓ヲ投シ建物ヲ新築シ其ノ販賣高九萬二千五百八十三圓ニ達スル等組合員ノ漁業經濟ニ多大ノ利益ヲ與ヘ斯業ノ發達ニ努力シツツアリ

農事實行組合、農民ノ自發的發動ニ依リ精神的團結ヲ基礎トシ協同一致以テ改善事項ノ實行ニ當ル趣旨ニテ組織シタルモノ從來組合アリシガ昭和二年中管内全般ニ亘リ組織ヲ促シタル結果現在三十二組合ニ増加シ組合員七百名ニ達シタリ更ニ統一聯絡機關トシテ管内ニ農會ヲ組織シ兩者ノ聯絡ヲ圖リ益々農業ノ改良發達ニ努メツツアリ今是等ノ名稱地域狀況ヲ示セバ左ノ如シ

(42)

漁業組合

名	稱	所在地	區域	城
登富津信用組合	12	三	4,000,000	4,000,000
本古丹信用販賣購買組合	101	四	3,565,000	4,255,370
廣地村信用販賣購買利用組合	35	六	4,000,000	1,842,710
計	148	三〇	11,565,000	10,103,080
廣地村漁業組合		廣地村	廣地村沿岸各字	
眞岡町漁業組合		眞岡町	眞岡町同上	
蘭泊村漁業組合		蘭泊村	蘭泊村同上	
野田郡漁業組合		野田町	野田郡同上	

(43)

農事實行組合

町	村	組合數	組合員數	備	考
眞岡	三	三	五		
蘭泊	二	〇		富内岸澤設立手續中	
清水	一六	二			
廣地	二	一			
小能登呂	九	三	八		
野田	一	一	五	北澤ニ設立手續中	
計	三三	三	一〇		

七、運輸
 移出、 北海道内地諸港トノ運輸ハ逐年増加シ眞岡、野田、蘭泊等ノ各港ヨリ水産製造物

(44)

木材、製紙、バルブ、食料罐詰等ヲ島外ニ移出シ米穀、雜貨、藥品、製紙用工業用品、被服料類等ヲ移入ス、出入船舶届出ニ依ル昭和二年ノ移出入物資價格ヲ舉クレハ左ノ如シ

港別	出入		移入		移出	
	船舶數	噸數	噸數	價額	噸數	價額
真岡港	七四	九,四四三	七五,〇〇七	三,五九四,四七四	三,五九四,四七四	九,四四三
野田港	四三	三,五二五	一〇,五六六	八七,八五三	二五,〇四四	二,〇〇六,三三三
蘭泊港	八一	八,二五三	七〇三	七五,三五六	一四,四四六	一六,一七七
其他港	一四	三,〇〇八	七	八,六四三	一〇,八七九	三,七五〇,五〇五
計	一三六	一,一,二,六三三	八,四四七	八,三三,三二八	八,六六三,三三三	一三,四四七

外國貿易、真岡港ハ四宮海峽ヲ經テテ露領沿海州ト指呼ノ間ニ在リ將來對露貿易上重要ナル價值ヲ有スルモ日露協約成立後未タ彼我ノ交通通商ノ機運ニ達セスタメニ輸出ハ杜絶ノ狀況ニシテ僅カニ開東州方面ヨリ食塩、石炭等ノ輸入アリ
今真岡税關支署ノ調査ニ依ル昭和二年ニ於ケル貿易左ノシ

樺太廳技師 岡本 曉

(輸出ナシ)

地	單位	數	量	價	額
州	擔		三,四四五		三〇,〇二二
他國	リ				三〇,〇二二
州			一九,六五八		二六,〇二〇
計					一七
					二六,九四二

八、金

(45)

金融機關、金融機關トシテ真岡町ニ北海道拓殖銀行、樺太銀行ノ兩支店及真岡倉庫株式會社、真岡土地建物株式會社、真岡無盡株式會社、樺太和洋無盡株式會社、樺太信託株式會社、真岡支店等アリ蘭泊村ニハ蘭泊無盡株式會社、野田町ニ北海道拓殖銀行支店、野田倉庫株式會社、萬全無盡株式會社、樺太共榮金融會社等アリ昭和二年拓殖及樺太兩銀行支店ノ預金貸付成

插入文書

(44)

木材、製紙、バルブ、食料罐詰等ヲ島外ニ移出シ米穀、雜貨、薬工品、製紙用工業用品、被服料類等ヲ移入ス、出入船舶届出ニ依ル昭和二年ノ移出入物資價格ヲ舉クレハ左ノ如シ

港別	出入		移入		移出	
	船舶數	噸數	噸數	價額	噸數	價額
眞岡港	七四	五九、二四	七五	一、〇七、七〇	三、五九	九、九八〇
野田港	四三	二五、一五	一〇、五六	八、七〇	三、〇〇	三、〇〇
蘭泊港	八一	八、二五	七三	七、三六	一、四四	一、六二
其他港	一四	五、八六	三	八、六四	一〇、八七	三、七〇
計	一、六二	一、〇三、六四	六、四一	八、三三、二八	八、〇八	一、三、〇〇

外國貿易、眞岡港ハ四官海峡ヲ距テ露領沿海州ト指呼ノ間ニ在リ將來對露貿易上重要ナル價值ヲ有スルモ日露協約成立後未タ彼我ノ交通通商ノ機運ニ達セスタノニ輸出ハ杜絶ノ狀況ニシテ僅カニ開東州方面ヨリ食塩、石炭等ノ輸入アリ
今眞岡税關支署ノ調査ニ依ル昭和二年ニ於ケル貿易左ノシ

輸

入

(輸出ナシ)

(45)

八、金

三、銀

品名	仕出地	單位	數	量	價額	
					噸	價
食鹽	關東州	擔		三、四三		三、〇〇
石炭	關東州			一、六六		三、〇〇
其他	其他國					一、七
計						三、〇〇

金融機關、金融機關トシテ眞岡町ニ北海道拓殖銀行、樺太銀行ノ兩支店及眞岡倉庫株式會社、眞岡土地建物株式會社、眞岡無盡株式會社、樺太相模無盡株式會社、樺太信託株式會社眞岡支店等アリ蘭泊村ニハ蘭泊無盡株式會社、野田町ニ北海道拓殖銀行支店、野田倉庫株式會社萬全無盡株式會社、樺太共榮金融會社等アリ昭和二年拓殖及樺太兩銀行支店ノ預金貸付成

禪太廳技師
岡
本
曉

挿入文書



挿入文書

九、財 政

昭和二年度國稅調定額三十三萬二千五百二十九圓ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

町 村 別	市街宅地稅	所得稅	營業稅	酒 稅	鐵 業 稅	計
廣 地 村	—	—	—	—	—	—
眞 岡 町	—	—	—	—	—	—
清 水 村	—	—	—	—	—	—
瀧 泊 村	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
大正十四年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
大正十五年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
昭和元年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
大正十四年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六

九、財 政

昭和二年度國稅調定額三十三萬二千五百二十九圓ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

町 村 別	市街宅地稅	所得稅	營業稅	酒 稅	鐵 業 稅	計
廣 地 村	—	—	—	—	—	—
眞 岡 町	—	—	—	—	—	—
清 水 村	—	—	—	—	—	—
瀧 泊 村	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
大正十四年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
大正十五年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
昭和元年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六
大正十四年計	八六,五三三	八,三三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三六,八六六

町村費、各町村役場ハ大正十一年四月樺太町村制施行ト同時ニ開設サレタルモノニシテ昭和三年度ノ歳入歳出豫算額五十四萬三千百一十一圓前年度ニ比較シ八萬一千四百二十四圓ヲ増加セリ

昭和三年度歳入歳出豫算額ヲ町村別ニ擧クレバ左ノ如シ

歲 入

町 村 名	町 村 稅	其ノ他收入	計
小能登呂村	—	—	—
野 田 町	—	—	—
計	—	—	—
大正十四年	—	—	—
大正十五年	—	—	—
昭和元年計	—	—	—
大正十四年計	—	—	—

歲 入

町村費、各町村役場ハ大正十一年四月樺太町村制施行ト同時ニ開設サレタルモノニシテ昭和三年度ノ歳入歳出豫算額五十四萬三千百一十一圓前年度ニ比較シ八萬一千四百二十四圓ヲ増加セリ

町 村 名	町 村 稅	其ノ他收入	計
小能登呂村	—	—	—
野 田 町	—	—	—
計	—	—	—
大正十四年	—	—	—
大正十五年	—	—	—
昭和元年計	—	—	—
大正十四年計	—	—	—

町 村 名	總額		臨時部		合計	
	常	臨時	常	臨時	常	臨時
廣地村	一六,一〇二	一五,〇四四	三,四七五	三,四七五	三,四七五	三,四七五
眞岡町	一五,九三二	二六,七七八	二六,四九六	五,七七一	五,七七一	五,七七一
清水村	一五,一六六	一八,五七七	五,七〇〇	四,二〇〇	四,二〇〇	四,二〇〇
關泊村	一五,六五五	一九,九六六	五,六三三	三,九四五	三,九四五	三,九四五
小能登呂村	三,七九九	三,七〇六	四,五五九	三,九〇〇	三,九〇〇	三,九〇〇
野田町	四,三三三	一八,四四六	七,〇三三	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	三〇,〇五五	三三,〇五九	三三,〇五九	二二,〇〇〇	二二,〇〇〇	二二,〇〇〇
昭和二年度計	三三,三三三	三六,四七四	四六,〇六七	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
大正十五年 (昭和元年度)計	三六,一五五	二八,〇二七	四六,〇六七	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇

町 村 名	總額		臨時部		合計	
	常	臨時	常	臨時	常	臨時
廣地村	一七,五五五	一六,二七七	一三,四四一	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
眞岡町	一四,〇〇六	一五,七九〇	一四,〇〇六	一,七八四	一,七八四	一,七八四
清水村	一五,一七七	一六,九五四	一七,五二六	三,四四五	三,四四五	三,四四五
關泊村	一五,八六六	一六,七六七	一八,七六六	一,七〇〇	一,七〇〇	一,七〇〇
小能登呂村	一七,七五五	一四,七三四	一七,八三四	二,六八八	二,六八八	二,六八八
野田町	一四,七四七	一四,七四七	一五,一六六	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	一〇八,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇
昭和二年度計	一一〇,八三三	一〇六,六七七	一〇八,〇〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇
大正十五年 (昭和元年度)計	一〇六,一六六	一〇一,三二二	一〇六,一六六	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇

支總歲出歳入、支總歳入歳出豫決算大正十四年度ヨリノ状況左ノ如シ

一〇社

寺

神社、樺太神社規則ニ基キ設立認可ヲ得タルモノ左ノ如シ

神社名	祭神	所在地	創立認可
八幡神社	天照皇太神	野田町南澤	大正十年十一月
眞岡神社	同	眞岡町山手町	明治四十三年八月
蘭泊神社	大物主乃命	蘭泊村蘭泊	大正十一年十二月
小能登呂神社	大國魂命 大已貴命 少彦名命	小能登呂村下能登呂	大正十一年十二月
野田神社	天照皇太神	野田町西三條	大正十二年八月

昭和二年	大正十五年	大正十四年
六〇、六三	六九、六五	四七、九五
三九、二	六四、三	五、九四
六四、四七	七〇、〇四	四三、八〇
四三、七	三〇、一〇	三〇、四
一六、四	一六、七	四、一
五七、八六	四九、〇	三三、六九

姉苗三吉神社

大已貴命 三吉太神

少彦名命

廣地村姉苗

大正十四年八月

寺院、寺院十ヶ所布教所二十一ヶ所アリ其ノ宗派別左ノ如シ

寺院名	宗派別	所在地	創立認可	昭和二年末信徒數
廣證寺	眞宗大谷派	廣地村廣地	大正十二年一月	一一〇
樺太山眞教寺	眞宗本派	眞岡町南濱町	大正四年十一月	三〇〇
勝住寺	眞宗大谷派	同山下町	大正六年七月	三三〇
眞岡山同慶寺	曹洞宗		大正元年八月	四七
大照山香華寺	淨土宗		大正九年九月	一七
法龍山寺	日蓮宗		大正十一年八月	二五
虎嘯山寺	曹洞宗	蘭泊村蘭泊	大正六年七月	二四
淨教寺	眞宗大谷派		大正十三年十一月	二

本弘寺 淨土眞宗大谷派 野田町濱町 大正八年九月
護國山 曹洞宗 //大通 大正二年八月
全昌寺

布教所宗教派別

眞宗	淨土宗	曹洞宗	日蓮宗	眞言宗	天理教	神道	御嶽教	計
六	二	二	一	六	二	一	一	二
						修成派		

一、教育及刊行物

小學校教育、制度ノ改善ト教員ノ素質ノ向上ハ單ニ兒童ノ教養ニ止マラス郷土開發並ニ社會教化ニ良好ナル影響ヲ及ボシ近年其ノ成績顯著ナルモノアリ就學出席狀況モ町村當局ノ熱誠ト住民ノ自覺トニ依リ益々成績良好ノ域ニ進ミ殆ト不就學者ヲ見サルノ現況ニシテ昭和二年ノ就學歩合九九、九九出席歩合九五、三六ナリ昭和三年四月現在ノ狀況左ノ如シ

町	村	名	校	兒童數	學級數	教員定數	定員	外員	裁員
---	---	---	---	-----	-----	------	----	----	----

廣地村	四	高等	四六八	三	一	三
眞岡町	三	〃	一七九	四	六	一
濟水村	七	〃	三九五	一	一	
蘭泊村	六	〃	九六九	二	六	
小能登呂村	五	〃	五三〇	二	四	
野田町	四	〃	八八〇	三	四	
計	〃	〃	五三三〇	一六	二	三

備考 廣地村ニハ多蘭泊土人教育所ヲ含ム
尙兒童ニ對スル勤儉思想養成ノ資トシテ貯金ノ獎勵ヲ促シツツアルガ昭和二年第三學期末現在貯金兒童二千五百六十一人貯金高五萬六千二百七圓ニ達シ兒童一人當リ平均十九圓七十六錢ヲ示セリ
中等教育、大正十五年五月眞岡町ニ二ヶ年制ノ公立眞岡實科高等女學校ノ設立アリ高等

卒業程度ノ女子ヲ入學セシメ教育アリタルガ昭和三年一月是ヲ公立眞岡高等女學校ニ變更シ尋常卒業程度ヨリ入學セシム、職員校長以下五名ニシテ生徒數一、二學年ヲ通ジ百四十二名アリ又眞岡中學校ハ昭和二年ニ於テ六萬五千六百餘圓ヲ以テ寄宿舎ヲ設置シ更ニ昭和三年中ニ校舎ノ増築ヲ見ルニ至可ク現在職員校長以下十四名ニシテ生徒數一、二、三、四學年ヲ通ジ三百四十一名ナリ

社會教育、社會教育ニ付テハ各町村ニ青年團、教育後援會、兒童保護會、婦人會、處女會等ノ施設アリテ相當効果ヲ擧ケツツアリ就中青年團ハ管内ヲ通シ六分團三十團體アリ其ノ人員九百五十一名ニシテ夜學會、巡回文庫、體育施設等成績見ルベキモノアリ
青年訓練所ノ開所ハク所ニシテ生徒數現在二百六十九名アリ是ガ成績向上ニ努メツツアリ
尙管内ヲ統一セル眞岡支廳管内教育會アリテ各町村ニ支部ヲ設ケ樺太教育會ト聯絡ス、管内教育會ニハ附設圖書館アリテ其ノ閱覽ヲ獎勵スル外巡回文庫ヲモ實施シ教育上相當ノ成績ヲ收メツツアリ

刊行物、新聞紙ハ眞岡町ニ日刊樺太時事新聞、北進新聞ノ二社ノ外樺太日々新聞、樺太民友新聞、新日本新聞、樺太新聞、西海タイムス、豊原新聞、北海タイムス各支局アリ亦野田町

ニ日刊樺太新報及西海タイムスノ二社アリ
一、二、衛 生

樺太ノ風土ハ健康ニ適シ從テ地方病トシテ特ニ認ムルモノナク傳染病ノ如キ腸窒扶斯、ヂフテリア等ノ發生ヲ見ルニ過キス、衛生狀態極メテ良好ナリ
醫療機關ハ眞岡町ニ樺太廳眞岡醫院アリ開業醫其ノ他分布ノ狀況左ノ如シ

開業醫師產婆鍼灸術業調 (昭和二年末現在)

町 村 名	醫 師	產 婆	鍼 灸 術
廣 地 村	一	一	一
眞 岡 町	五	六	一七
清 水 村	一	一	四
蘭 泊 村	一	一	五
小 能 登 呂 村	一	一	一

一三、土人狀況

管内ノ土人ハ「アイヌ」種族ノミニシテ概シテ理解力ヲ有シ且順ニシテ善ク勤勞スル風アリ是ヲ教化シ物質及精神的ニ保護指導誘導シ來リタルガ其ノ成績見ルヘキモノアリ現ニ小能登呂村、登富津、廣地村、多蘭泊ニ住ス、登富津二十一戸九十九人多蘭泊八十三戸三百四十三人ハ何レモ農業ノ傍ラ農業ヲ營ミツツアリ登富津ノ兒童十六人ハ内地人ト共ニ登富津小學校ニテ教育シ多蘭泊ノ兒童四十七人ハ土人教育所ニ於テ教育シツツアリ

十四、官 公 衙

真岡支廳ハ明治三十八年十月樺太民政署マウカ支署ヲ設置セラレタルニ始マリ明治四十年樺太廳官制ニ依リ真岡支廳ト改稱セラレタルモノニシテ本斗及野田ニ出張所アリシモ大正拾一年拾月本斗支廳設置野田出張所廢止セラレテヨリ真岡郡ト野田郡ト二郡ヲ管轄シ大正拾一年四月一日ヨリ真岡郡、廣地村、真岡町、清水村、蘭泊村、野田郡、小能登呂村、野田町ノ二町四ヶ村

野田町	二	一	一	五	五
計	八	九	六	五	三
					二

即チ全管内ニ樺太町村制施行モラレ今管内ニ於ケル各官公衙ノ所在地ヲ列記モバ左ノ如シ

官 公 衙	所 在 地	開 設 年 月
樺太廳	真岡町	明治四十年四月
真岡支廳	山手町二丁目	明治四十年四月
真岡町役場	山手町一丁目	大正十一年四月
廣地村役場	廣地村	"
清水村役場	清水坂	"
蘭泊村役場	蘭泊村	"
小能登呂村役場	小能登呂村	"
野田町役場	野田町	"
真岡區裁判所	大通一丁目	明治四十年四月
真岡區裁判所	山手町一丁目	"
札幌刑務所出張所	山手町一丁目	大正九年十月

眞岡警察署	眞岡町目	大正七年六月
野田警察署	野田町目	大正九年四月
樟太廳眞岡醫院	眞岡町二丁目	明治四十三年四月
樟太廳觀測所	山手町一丁目	明治四十三年四月
眞岡支所	高濱町	明治四十年四月
樟太廳試驗場	眞岡村樂摩	明治四十三年四月
水産試驗場	眞岡遠泊	明治四十三年四月
宇速泊分場	宇速泊	明治四十三年四月
眞岡稅關支署	本町一丁目	大正十一年二月
眞岡商工會議所	眞岡町一丁目	大正十二年二月
眞岡	南濱町四丁目	大正九年十一月
野田	野田町濱町	大正十年十一月
眞岡郵便局	眞岡本町三丁目	明治四十年四月

廣地郵便局	廣地村	大正三年六月
北濱郵便局	眞岡町	明治四十五年四月
逢坂郵便局	清水村坂	大正十年八月
關泊郵便局	關泊村	明治四十二年十一月
小能登呂郵便局	小能登呂村	大正三年五月
野田郵便局	野田町	明治四十一年四月
二股郵便局	清水村	昭和二年九月

昭和參年六月二十日印刷
昭和參年六月二十五日發行
(非賣品)

眞岡支廳

印刷人 榎本眞岡郡眞岡町大字眞岡
字北濱町一丁目十五番地 正己

印刷所 榎本眞岡郡眞岡町大字眞岡
字北濱町一丁目十五番地 寺岡印刷所

